

用語の解説

〈あ〉

維持管理費 (P. 25)

管路及び処理施設の機能の維持のために必要となる、点検・調査・修繕や処理施設の運転管理などに要する費用。

雨水浸透柵や雨水浸透管 (P. 14)

雨水柵や雨水管に穴を設けてその周囲に碎石を敷き、集水した雨水をその周囲から地中に浸透させる施設。総称して、雨水浸透施設という。

雨水貯留施設 (P. 14)

流出した雨水を集水して別の場所に貯留し、下水道や河川などへの雨水流出を一時的に抑制するための施設。

雨水吐き室 (P. 45)

合流式下水道において、雨天時にある一定量までの下水は下水処理場へ流し、一定量以上は分水し、処理可能量以上の雨水を公共用水域へ越流させるための施設。

雨水流出抑制施設 (P. 24)

雨水を浸透や貯留することにより、下水道に流入する雨水量を減少させ、下水道に短時間で大量の雨水が流入しないようにする施設。

汚水 (P. 10)

人の消費生活または生産活動を行うことで生じる排水のこと。具体的には、生活雑用水、水洗便所からのし尿、工場や事業所から排出される工場排水などをいう。

〈か〉

改築 (P. 10)

更新または長寿命化対策により、所定の耐用年数を新たに確保するもの。

①更新：既存の施設を新たに取替えること。

②長寿命化対策：既存の施設の一部を活かしながら部分的に新しくすること。

企業債 (P. 20)

地方公営企業が施設の建設などに要する資金に充てるため、国などから借り入れる長期借入金の総称。

緊急輸送路 (P. 43)

大規模な地震などの災害が発生した場合に、救急活動や物資輸送を円滑に行うために、県や市などが事前に指定した道路。

繰上償還 (P. 20)

当初設定されていた償還期日より前に、企業債を償還すること。

下水道ストックマネジメント計画 (P. 10)

下水道施設の状態を点検・調査によって客観的に評価し、長期的に予測しながら、改築・修繕を計画的かつ効率的に実施し、下水道施設を管理することを定めた計画。

下水道普及率 (P. 4)

処理区域内人口 ÷ 行政区域内人口 × 100 総人口に対して下水道を利用できる人口の比率。

減価償却 (P. 20)

最短2年以上の長期間にわたって使用できる固定資産（建築物や構築物）の取得に要した支出（設備投資）を、その取得年度において全額を支出費用にせず、取得資産の耐用年数の間に少しずつ費用化していく会計処理のこと。

広域化・共同化 (P. 46)

複数の処理区の統合や、下水汚泥の共同処理、複数事業の管理を一体的に行う等の広域的な連携により事業運営基盤の強化を図ること。

降雨強度 (P. 14)

瞬間的な雨の強さを1時間あたりに換算した雨量 (mm/h)。

高度処理 (P. 18)

下水処理において、通常行われる高級処理（微生物の反応を利用して、生物学的に下水中の有機物を除去する方法）で得られる処理水質以上の水質を得る目的で行われる処理。高級処理では十分に除去できない窒素、りんなどを多量かつ確実に除去する方法。

合流式下水道緊急改善計画 (P. 18)

公共用水域への影響を軽減させることを目的に、汚濁負荷量の削減、公衆衛生上の安全確保、夾雑物（ごみなどの固形物）の削減などの目標を定めて、早急に合流式下水道の改善を図る計画。

〈さ〉

修繕 (P. 10)

老朽化した施設または故障もしくは損傷した施設を対象として、当該施設の所定の標準耐用年数内において機能を維持させるために行われるもの。

浸入水 (P. 11)

晴天時に下水道管路に流入する「常時浸入水」と雨天時に下水道管路に流入する「雨天時浸入水」に分類される。「常時浸入水」は、日常的に地下水などが下水道管路の損傷部から管内に流入する。「雨天時浸入水」は、分流式下水道の汚水管に流入するはずのない雨水の流入により下水が溢れてしまい被害をもたらす。また、浸入水に対しては、下水道使用料が発生しないため、下水道経営に悪影響を与える。

スクリーン (P. 18)

下水中に含まれている夾雑物（ごみなどの固形物）を除去するために雨水吐き室に設置する施設。

〈た〉

耐震診断 (P. 24)

既存の施設で耐震性を診断するもの。

取付管 (P. 16)

宅内最終枡や街渠雨水枡から下水本管へ流す管路。

〈は〉

BCP (P. 17)

Business Continuity Planning（業務継続計画）の略。自然災害など、予測せぬ事態が発生した時でも、業務を継続できるようにするための方法・手段を定めた計画。

標準耐用年数 (P. 10)

施設がその本来の用途に使用できるとされる標準的な年数。

不明水 (P. 24)

下水道施設に流入する、排出元が不明な雨水や地下水のこと。

〈ま〉

目標耐用年数 (P. 12)

改築の実績等をもとに施設管理者（芦屋市）が目標として設定する耐用年数。

モルタル (P. 42)

砂（大きさ 5mm 程度未満の細骨材）とセメントと水を練り混ぜて作る建築材料。

〈や〉

有収率 (P. 25)

汚水処理水量のうち使用料徴収の対象となる有収水の比率。有収率が高いほど、使用料徴収の対象とできない不明水が少なく、効率的であるといえる。

〈ら〉

ライフサイクルコスト (P. 38)

施設・設備における新規整備、維持、改築などを含めた生涯費用の総計。

